



### スカイAカップ 2022 プロボウリングレディース新人戦

6月11・12日  
ボウリング王国  
スポーツ八景店

# 今井双葉が 1年目で新人戦卒業

2022プロボウリングレディース新人戦は、51期から54期の女子プロ25名により争われたが、今年トップ合格の今井双葉(54期・フジクラプレジジョン株)が、デビュー戦で初タイトルを獲得した。また23名が参加したアマの部は、昨年準Vの佐藤悠里選手(ボウリング王国スポーツ八景店)が優勝を飾った。(主催：(公社)日本プロボウリング協会/特別協賛：(株)スカイA)

## 予選から独走の越智はVでの卒業ならず

昨年は優勝決定戦で敗れ、中島瑞葵にデビュー戦Vを献上した越智真南が、出場有資格最終年の今年は、気合十分に2位以下に200ピン近い差をつける3272(14G)を打って、ぶっちぎりの1位で決勝トーナメントに進んだ。しかし決勝1回戦ではレーンアジャストに苦しみ、8位通過の関口実穂に苦杯を喫

し、悔しい新人戦卒業となった。

1回戦を突破して準決勝に駒を進めたのは、今年デビューの関口と今井、そして52期のキム・ソヒョン、53期の堀井春花という顔触れとなった。

準決勝第1試合のキムと堀井の対戦は、堀井が5フレからのターキーで奪ったリードを守り切った。第2試合の今井と関口の対戦は、「レーンを読み切れなかった」関口を、今井が1フレからの6連発などで圧倒した。

優勝決定戦でも1フレから快調にストライクラッシュをかける今井に対し、堀井もストライクスタートだったが、2フレはややアンラッキーな⑦⑩スプリット、3フレは厚めで④⑥⑩と割れて連続オープン。「抜けてしまうのを怖がって内ミスをしてしまった。そこから1~2枚内に入って安定してきたけど、寄るのが遅かった」と悔やんだ堀井。6フレから意地のフィフスも、前半のビハインドが大きすぎた。



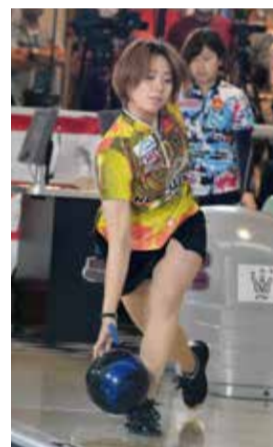
▲「1、2回戦の同期との対戦の方が負けたくないという気持ちが強かったので、力まないように気をつけた」と今井



▲「このところの調子は最悪と堀井。しかし昨年の全日本で準Vの実力は証明した」



▲プロの部・今井(左)とアマの部・佐藤選手、ともに現役のナショナルチームメンバーが優勝



▲「グリコでも6位に入るなど上り調子のキムだったが10フレ逆転のチャンスがあると思ったら、力んでしまった」



▲「準決勝は不本意な内容だったけど、4位は今後の自信になる」と関口

「パーフェクトで優勝できたから格好いいなと思ったけど…」と今井。その野望は6フレでついていたが、243:216で堀井を退け、見事にデビュー戦を優勝で飾った。またナショナルチームと二足のわらじをはく初

のタイトルホルダーとなった。

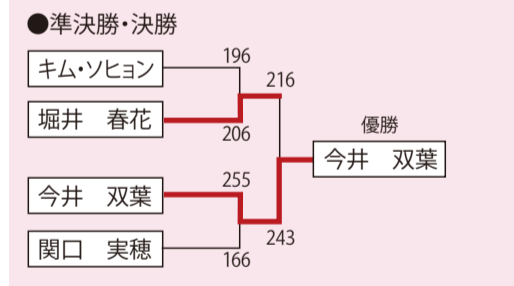
## アマは佐藤選手がリベンジ

アマの部は、佐藤選手と近藤菜帆選手(名古屋グランドボウル)のナショナルチーム対決となった。佐藤選手は昨年NHK

杯、そしてこの新人戦と、TV決勝で不本意な内容での敗戦の記憶が「フラッシュバックした」と振り返ったが、不安を払しょくするように1フレからの6連発で、247:183と快勝、リベンジを果たした。

●優勝決定戦

今井 双葉									
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
30	60	90	116	136	154	174	203	223	243
堀井 春花									
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
19	28	37	57	77	107	137	167	196	216



## 今月の表紙



▲プロでの初賞金50万円をゲット

同じ九州でジュニアのころから知っている中島瑞葵プロが、去年トップ合格でデビュー戦

## 今井双葉・プロでの新たな一歩

の新人戦を優勝している、それは周りから言われましたし、自分でも意識していました。デビュー戦ということで緊張はしたけど、大会をとおして意外に空気にのまれることなく、自分らしいボウリングができました。

決勝の27、28番レーンは、準決勝で269を打って、いいイメージがあったので、なんとなく負ける気がし

ませんでした。1回戦、2回戦とレーンの変化が早かった。優勝決定戦ももっと遅くなっていて、どうしようかなと思った。堀井さんはきっとストライクを持ってくるだろうし、守りに入ってはいは勝てないと思ったので、ストライクを取りにくためのボール、ラインどりを選択しました。

優勝が決まって、手拍子の中で最後の1投を投げましたが、気持ちよかったです。世界選手権(2017年)のシングルス戦でも最後の投球は拍手をもらいましたが、そのときのことがよみがえってきて、改めて優勝つ

ていいなと思いました。とくに姫路麗プロの前で優勝できたことがうれしくて、ウルとききました。2019年のラウンドワンカップ決勝トーナメントの準決勝で当たってぼろ負けしたけど、ずっとあこがれていた姫路プロと対戦できた時間が本当にうれしくて…。いつか優勝決定戦でぶつかって勝つというのが、ひとつの目標です。

所属先のフジクラプレジジョン株では、プロになって試合が増えるので雇用形態が変わりますが、引き続き応援していただけます。グループ会社を含めても私以外にはスポーツ選

手はいないけど、とてもよくしていただけるので、ありがたいなと思います。テレビに映って少しでも会社の宣伝になればと思っているので、そういう意味でも優勝できてよかったです。

アマチュアの試合ではそんなに打ち合いの戦いになることはないけど、今回の新人戦でも、いかにたくさんストライクを出すかの勝負で、そこがプロとアマチュアの試合の違いだなと実感しました。レギュラーツアーになれば、さらにハイスコアの戦いになると思うので、先輩方の背中を追って、自分もイケイケどんでん張りします。

優勝ボール：STORMアストロ・フィジックス